

令和元年度 大洲市がんばるひと応援事業【実績報告】

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	補助金 交付決定額	補助金 交付実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
1	戒川地区榎谷の棚田保全事業	榎谷棚田保存会	継続 (6年目)	棚田啓発事業として、田植え祭、収穫祭などのイベントを継続するとともに、棚田の特徴や歴史、周辺の見所などを紹介することで、地域の魅力を効果的に伝える。また、棚田のオーナー獲得を図るためのPRツールの作成や説明会の開催など、棚田オーナー制度のPR活動を推進する。 棚田オーナー制度改革を定着させるとともに、新たなオーナー、トラスト開拓の方法を編み出すとともに、地元生産者へのオーナー制度のPRをすすめ参加を促す。	1,682,000	1,682,000	ミニバックホーの購入によって、田植え祭・収穫祭などのイベントスペースを整地し、排水溝を設置して環境を改善することができた。 また、ビューポイントを見晴台として整備するため、アクセス道を延伸、山水の排水パイプを敷設した。ビューポイント周辺を整地し、休憩用檜丸太株を設置した。来年度に花壇など周辺整備を行う。 平成30年豪雨災害による土砂流入、崩落については、独自修復または災害復旧工事で別途整備された。	イベントスペースの整地・排水によって良好な開催環境が整い、オーナーの満足度向上・スタッフの作業軽減が期待できる。 ビューポイントへのアクセス通路が整い、広い見晴台ができたことで棚田全体をより高い場所から俯瞰できることにより、棚田景観の魅力が増した。今後、より多くの見学者を呼び込み、棚田オーナー開拓につながる。来年度以降、花壇の設置などさらに魅力を付加していく計画である。 豪雨災害からの小規模修復を一部自力で行った。ミニバックホーによって軽微かつ緊急を要するものについては独自に行うことができるようになった。	令和2年度は、棚田オーナー25組、棚田トラスト19口と過去最高となった。 棚田の魅力ハード、ソフト両面で高める努力を継続していく。 企業・団体の社会貢献活動との連携を開拓し、活動の基盤を強化する。また、今年度から実施される「棚田地域振興法」の地域指定をめざす。当面、榎谷棚田アクセス案内板の耐久化、見晴台の花壇設置、アクセス通路舗装、駐車場の整備などのハード面の整備と併せて、SNSによる情報発信力を強化する。
2	銀河鉄道999でまちおこし事業	新谷一万石まちおこしの会	継続 (6年目)	平成26年度より内容を拡充しながら事業を継続実施したことにより、松本先生と新谷のつながりがより強固なものとなったことや、マスコミにも数多く取り上げられ認知度が向上したこと、新谷地区においても、まちおこしの気運は高まっている。 この気運をさらに高めるためにも、今年度も引き続き、イラスト審査会や路上長テーブル食事を中心にイベントを開催し更なる活性化につなげる。 また、経常的なPRのため、モニュメントを整備するとともに、イラスト審査で受賞されたものでカレンダーを作成する。	2,000,000	2,000,000	7月に、新谷夏まつりにおいて、銀河鉄道999コスプレで山車を運行した。お祭り終盤には、集まった子供たちへ山車の上からお菓子まきを行った。 10月には、一年の目玉イベントでもある「テーブル食事会」が、台風19号の影響により松本先生が帰省できないことから、中止となったが、11月の新谷ふるさとまつりにおいて、10月に行う予定であった「カレンダープロジェクト」の発表と表彰を実施した。 また、3月には、念願の「新谷まちぶらマップ」が完成した。それに伴い、公民館前に古くからあるマップ看板もリニューアルした。	関連イベントの開催により、松本零士先生との繋がりをより強固なものとすると共に、「銀河鉄道999」や「漫画家 松本零士」を知らない世代の関心を高めることで、松本零士と銀河鉄道999と新谷の関係を広く全国に発信できるため、新谷にとどまらず大洲市全体のまちおこしに発展すると期待される。	初期目標である「松本零士 ころの古里 新谷」の発信は、6年という長期補助をいただけたこともあり、ある程度の成果を得たと感じている。 今後は、これまで築いてきたものを活かしつつ、新しい視点から新しい取り組みを行い、維持・継続していくための収入が得られるよう財源確保に努めていく。
3	「いろいろ」子育て支援事業	NPO法人 造形アートステージ・カルペルネージュ	継続 (3年目)	子どもたちを対象とした造形アートに関する教育啓発事業（造形アート教室「いろいろ」の開催）や造形アートを通じたコミュニケーション事業（造形体験ワークショップ「いろいろ」）に取り組む、子どもたちの想像力を養い、創造する力を身につける環境づくりに努める。 今年度も引き続き、幼稚園・保育所で造形アート教室を実施するとともに、要望のあった公民館・児童館でも造形アート教室を実施する。加えて、0歳児からでも参加できるグループワークショップを開催する。	945,000	945,000	造形アート教室では9回128名、造形体験ワークショップでは2回計30名、両事業の合計で158名の子どもたちとご家族が造形アートに親しんだ。 子どもはみんなアーティスト展では来場者202名に大洲市の子どもたちのアートを楽しんだ。	子どもはみんなアーティスト展を開催したことで、その後のワークショップの参加申し込みが増えたことから、保護者の関心が高まったことを実感した。今後の事業の発展へのつながりが見込められた。	各施設・各団体の助言を取り入れつつ、数年に一度アーティスト展を開催し続ける予定である。 展示会に出品してもらった作品の制作についても各所の協力を得ながら継続していきたい。
4	長浜まちなみ水族館事業	長浜まちづくり協議会	継続 (3年目)	長高水族館を訪れる約500人のお客さんを町なかに周遊していただくため、また、「水族館の町」の復活に向け、まちづくりの一步として「地域が一体となったまちづくり」「水族館を活かしたまちづくり」を実践するため、以前行っていた「長浜まちなみ水族館」を復活させる。 町の鮮魚店のいけすを利用し、スタンプラリーを実施したり、長浜で第3土曜日に実施しているイベント事業と連携することで、長浜の良いところを見ていただき、商店街の賑わいとなり、お土産の販売や商店街の売上向上につなげる。	308,000	308,000	9月・10月・11月の第3土曜日に長浜高等学校（長高水族館）をスタートして、街中にある鮮魚店や商店街を中心に、8箇所の水族館の一つとして回るスタンプラリーや魚屋のイクスを使って釣り堀イベントを実施した。スタンプ全部集めたら方に景品をプレゼントした。 また、お楽しみ抽選会を実施して、当選者には地元の特産品5,000円分を3名にプレゼントした。	長浜高校水族館部の一般公開に合わせたスタンプラリーを実施したことにより、来館者に町内を巡ってもらい、「水族館があった町」長浜を広くアピールし、長浜の魅力を知ってもらえることが出来た。 魚屋のイクスを使った釣り堀イベントを3回実施して、子供から大人まで釣りの臨場感・醍醐味を楽しむ機会を提供出来た。 イベントの告知を広く情報発信した結果、県外を含む大洲市外から多くの集客があり、地域の賑わいづくりや商店の売上増加等につながった。 今回から新しく「まちなみ水族館文庫」を開設し、イベント実施期間中、長浜ゆかりの坂本龍馬や魚に関する本の無料貸出を行い、長浜の歴史や文化にも関心を持ってもらうきっかけとなった。	長浜高校水族館部の活動を地域全体で支援するとともに、これまでのイベントのノウハウを活かしつつ、地元NPO等とも連携し、水族館の来客を町内に呼び込む取組を推進していく。 スタンプラリー参加者を中心に「長浜の応援団」となってもらえるよう、働きかけを行う。（お祭り、各種イベントの案内、特産品のパンフレット送付等） 長浜への来訪者のおもてなしイベントの実施（JR四国「伊予灘ものがたり」の長浜駅停車時の地元伝統芸能披露など）
5	Localから老化を変えていく～太鼓と踊りで人を元気に幸せに！～事業	みゆう	継続 (3年目)	本事業は、本格的な事業展開と普及、効果の立証までに3年を要する。 1年目には、本事業実施に必要なスキル及びノウハウについて、専門家から指導を受けつつ健康体操を作成し市内6施設にて実施する。 2年目は、1年目事業の継続のほか、ごぼう先生（築瀬寛氏）による講演会・研修を開催する。また、それまで介護施設を中心に行ってきた健康プログラムを民間の高齢者学級など「全市・全公共機関」に向けて普及活動を行う。専門家意見や参加者アンケートを元に内容を改善しながら、 3年目には、市内の介護施設と年間契約を締結して定期的な訪問（有償）を実施し自立事業として確立する。また、市の福祉担当課・保健センターなど行政と連携し事業を展開することで信頼と認知度を高め、高齢社会に貢献できる体制を整える。	937,000	937,000	6月より市内の介護施設での参加型慰問を昨年より引き続き実施した。新規訪問施設開拓に加えて同じ施設に複数回訪問し、継続することでさらに良い効果があるという報告や再訪を望む声をいただいた。 11月に開催したエクサダン講習会では約60名の参加をいただき、事後アンケートでも「和太鼓にこんな活用方法があると初めて知った、楽しかった」等たくさん感想が寄せられ、高い満足度を得た。講習会の内容をもとに、後に市内の公民館で学級講座を開催した。エクサダン講習会で学んだ内容に施設で行ってきた和太鼓の体験や演奏などを加え、参加者や職員の方に好評を得ることができた。	施設訪問では、鑑賞と実践を交えたプログラムで五感と情緒を刺激し、参加者の心身活性化を促すことができた。訪問施設の新規開拓と並行して、今年度は年間を通して（約一月に一度）訪問をさせていただいた施設もあり、スタッフや利用者の方との信頼関係の構築、季節に合わせたプログラム作りなど、今後の継続的な活動に必要な知識を学ぶことが出来た。また、再訪と継続を望む声も多く聞かれた。 エクサダン講習会の開催により、和太鼓の持つ多様な可能性とその健康効果、太鼓を叩く楽しさを知っていただいた。講習会の内容を生かして高齢者学級を開催し、和太鼓を更に地域に根付かせるきっかけとなった。	市内介護施設と公民館を中心に内容の更なる改善と備品の充実を図り、継続的・定期的な健康プログラム実施を行う。介護施設では、有料化への移行期間として、各施設と話し合いを進め希望を聞き、特化した内容を作っていくとともに、公民館では定期的な学級講座の開催を目標に周知を行う。

令和元年度 大洲市がんばるひと応援事業【実績報告】

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	補助金 交付決定額	補助金 交付実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
6	草花の活用と大洲菊文化の継承による地域貢献事業	大洲農業高等学校(生産科学科)	継続(3年目)	大洲農高には、地域から農業振興に対する大きな期待が寄せられており、知識や技術を地域に還元していくため、フラワーデザインに関する新しい技術、多肉植物と菊の栽培技術を向上させ、地域住民を対象とした講習会を開催していく。 また、高齢化が深刻な菊花の関連団体から高い技術を継承し、大洲市の菊文化を守っていく。 小・中学生を対象とした満足度の高い交流学習を継続的に実施できる体制を整えることにより、「大洲農業で草花を勉強したい」という意識付けにつなげ、地域住民からの大洲農高の存在意義を高めていく。	360,000	360,000	フラワー装飾競技において、10月の全国大会には2名が出場し、審査員奨励賞を受賞するなど成果を取めた。また、大洲喜多小学校、大洲北中学校などで「大農フラワーアレンジメント教室」を開講し、参加していただいた多くの方々に喜んでいただいた。 菊栽培においては、大洲市菊花協会から苗の提供をしていただき、多様な菊の栽培に尽力した。今年度61回目を迎えた大洲市菊花展に貢献することができた。 多肉植物業者を訪問し栽培に関する指導を仰ぎ、本校の活動に還元し栽培に取り組み、大洲喜多地区の販売イベントに出品することができた。	フラワー装飾競技にて全国大会での入賞を果たすことができた。また、フラワーアレンジの講習会では全151名の方々に参加していただき、大盛況であり多くの方々に喜んでいただけた。 61回目の大洲市菊花展に貢献することができた。高齢化により出展者が減少しつつある菊花展において、活動の活性化に貢献した。 多肉植物専門業者による栽培技術講習、寄せ植え講習会を受講した。本校で栽培した多肉植物はイベント等に出品し好評をられた。	多方面から講習会の依頼があり、楽しさを普及すると同時に、生徒の技術やコミュニケーション能力の向上が顕著に表れ、進路実現にもつながり教育的効果の高さを実感した。近年、介護福祉施設利用者のフラワーアレンジメント体験による身体的効果が話題になっている。地域住民、中学生に加え、介護福祉施設等での講習会を新たに開講し、日頃の活動を地域へ還元できる場を継続して構築したい。 本事業は、講習会や菊花展等の交流活動を通して花を扱う楽しさを発信すると同時に、本校の存在意義を向上させることを目的としている。活動のマンネリ化を防ぐため、新しいアイデアの創造や積極的な地域交流を今後も実践していきたい。
7	おおなる元気化プロジェクト2019事業	NPO法人 おおなる工房	継続(3年目)	大成地区において地域の空き家(古民家=旧・醤油製造販売の商家/昭和14年築)を活用し、「地域元気化」の拠点とするため、施設整備を行うとともに肱川中流域の特性を活かした「食べる」「遊ぶ」「学ぶ」をテーマとした事業を行い、首都圏を含む都市部からの集客を図る。 また、事業を進める中で、都市と大成地区との多重居住等についての可能性を探り、大成地区に拠点施設を中心に大成全体をフィールドとした多様なソフト事業を企画し、これまでとは違った観点からの地域活性化を進める。	2,000,000	2,000,000	■ハード事業(全体の中核施設としての古民家整備) 築80年の木造2階建て家屋の1階部分(計約112m)の改修工事 1) カフェ・レストラン・営業用の台所を整備 2) カフェ・レストラン客席として、土間・板の間の整備(客席数20) 3) トイレ(男女各1)、浴室の整備 4) 図書室(大型書棚の設置)、物販スペース、事務室、貯蔵庫の整備 ■ソフト事業(すべて補助対象外) 1) 専門家による料理教室 真(なほ)料理教室(令和元年12月8日開催/参加者14人) 2) 体験プログラム(インバウンド対応含む)の開発 大洲大川 秋らんまんツアー(令和元年11月9日~10日開催/参加者12人) 他	■ハード整備 業者不足の関係で事業着手は遅れたが、予定どおり竣工することができた。また、事業費が当初予算の126%に増大したのは誤算だったが、そのぶん今後の運営計画を練り直し、古民家を地域の拠点として活用していく。 ■ソフト事業 「農+アート」事業として、ダンスと詩画展を実施。特に秋ダンスは地域住民の参加が多く、地元の人に喜んでもらうことができた。これまでは「こんな山の中だから、人は来ないだろう」と諦めている人が多かったが、「やっぱり、ここはええところ」と、大きな自信につながった。 モニターツアーも感触がよく、ファン獲得に手ごたえを持つことができた。	完成した古民家カフェ「Chez 利太郎」を本格オープンする予定である。農林水産省「農泊」事業としては、地域外の人々が主なターゲットになるが、地元住民にもしっかりPRをして、内外の人が出会う場として機能させたい。また、地元住民には、カフェで提供する料理の食材を栽培してもらったり、体験プログラムの提供者としても協力を依頼する。
8	大洲・長浜を舞台にした映画普及事業	大洲長浜映画普及委員会	継続(3年目)	大洲・長浜を舞台に、高校生を主人公とした自主企画映画を制作する。単なる観光PR動画とならないようにドラマ性を持った内容とし、西予市城川町遊子川の事例を参考に、地域の方や団体に全面的に協力してもらい、地域の皆さんの手で映画を作っていく。キャストについては、オーディションにより決定したり、地元の方にも出演してもらおう。映画の完成が最終目標ではなく、映画の完成は始まりとして、その後の波及効果をにらんだ活動を視野に入れ、完成後は、出張映画上映会を開催し、その中で地域の特産品の販売や試食会を行い、地域の魅力を発信していく。	1,057,000	754,000	今年度は県外(大阪府大阪市、兵庫県豊岡市)で映画上映会を実施した。 また、上映会にあわせて、長浜町商工会やキタマネジメントなどと連携して、物産展の実施やふるさと納税・大洲えもんセレクション・長浜高校などのPRを行った。	映画の3つのモチーフ、肱川あらし、長浜大橋、長浜高校水族館についてのアピール、さらに今回の映画上映会をきっかけに、3市(薩摩川内市、豊岡市、大洲市)の川あらしチーム、河川事務所が集まり、今後はそれぞれの活動を連携して行うことを合意した。 地域自然の発信や水害対策、さらには各地域の文化を共有しながら、さらに全国、世界へと広げていこうというこの取り組みに、NHKが注目して取材が入り、数日後夕方のニュースで放送される。 大阪で暮らす大洲市の人たちに、故郷の情景や元気を届けることができた。特産品のPR、販売開拓に繋がった。長浜の銘菓はあつという間に売り切れ、大洲市のふるさと納税についても強くアピールできた。	単独の映画上映会にとどまらず、映画&マルシェ、映画&勉強会、映画&コミュニケーションなど、まだまだいろいろ可能性があるとおもうので、今後あれこれ検討して活動していきたい。 産・官・学・民・言との連携を図り、地域の文化を広く発信していきたい。
9	肱川町の農産品と観光開発による地域活性化事業	肱川プロジェクト	継続(2年目)	現在、大洲市肱川町では就労世代の都市部への流出、少子化等の影響により地域住民の活力低下、主要な産業である農林業の担い手不足等、様々な問題を抱えている。そこで、町内の様々な課題解決の為に、肱川町内に存在しているであろう様々な資源を掘り起こし、その利活用を計画し、肱川町の未来に向けてより良い活動を行っていく為、有志による肱川町活性化組織「肱川プロジェクト」を平成30年3月に結成し活動を開始した。 今回、主に町内農産品等を使用した特産品を開発することにより生産者の意欲向上と農産品の消費の拡大を目的とした「特産品開発」、地域資源を利活用することにより交流人口の増加を図る為の「観光開発」を強く推進する為、当事業を計画実施することにより、肱川町の地域活性化を図りたい。 今年度は、トマト、クリ、シイタケ、タケノコ、炭を利活用した新たな特産品の開発を行う。また、町内の景勝地や観光地、お店などをPRするためのパンフレット作成及び肱川かるたの作成と大会を実施する。	701,000	543,000	昨年度に試作した「肱川カルボナー」のブラッシュアップを図りつつ、新しい特産品開発として「トマトチーズケーキ」の作成に取り組み、「トマトチーズケーキ」については販売できるまでに完成した。「肱川カルボナー」については材料(麺)の調達に困難が生じたため、来年度に向けて再度ブラッシュアップを図りたい。 また、昨年度作成した「ひじかわカルタ」を活用した子供向けのカルタ大会を実施し、初大会ということもあり20名ほどの参加にとどまらず、大変白熱した大会を実施できた。来年度ではカルタの枚数を増やすとともに、周知方法などを見直すなど、より多くの参加者による大会が開催できるよう改善を図ってきたい。 鹿野川ダム湖周辺を活用した観光整備計画として、今人気が出ているアクティビティの一つ「ジップライン」について、地理的条件が似ている熊本県美里町に赴き研修を実施した。この美里町ではダム湖を活用したジップラインを整備しており、肱川町でもこの研修を活かして観光整備の計画を進めていきたい。	ひじかわカルタ大会を1月12日に肱川小学校体育館で開催し市内の小中学生20人が参加。楽しみながら地域について学んでもらえた。 前年度から試作していた特産品が完成し、このうち、「トマトチーズケーキ」は肱川プロジェクトの第1号商品として販売する目途がたつた。これにより新たな展開が望める。	現在33枚のひじかわカルタに、残り17枚追加し、完成させる。また参加条件(今回は小学生のみ)、募集時期、実施日程等を再考し、参加者が増える大会となるよう検討する。 開発初年度ということでラッピング等にお金をかけることができなかった。今後は、ラッピング等の特産品の見せ方も検討するとともに、販路拡大や生産体制についても検討していく。また、もう一つの特産品も販売できるよう推進していく。
10	肱川あらし展望公園を発展させる事業	クロングセブン	継続(2年目)	黒田地区は、ひと世代前の子供人口はかなり多かったが、現在は限界集落になりつつあり、近年、親世代、子ども世代も黒田を見放してしまっている。黒田地区を桃源郷のような魅力ある地域にすることが出来たら、子孫達はもちろん外部の方が訪ねてみたい、住んでみたい場所となる。黒田の斜面は長浜沖や青島(ねこの島)の島の復路からよく見えるので、肱川あらし展望台までの道路沿いに桃など植樹し、桃源郷をおもわせるような地域にしたい。自身も大阪から移住して来た。移住者であるからこそ分かる事や発見できる事がある。黒田地区は、まだまだ改善発展することができる地域である。しかし、肱川あらし展望公園付近は、近年、家電や生活ごみを放置するなど不法投棄が増え、一因として、公園への来場者が少なく人影がないという事も原因の一つと思われる。まずは、沿道の放置された畑に桜・花桃等の木を植える事も公園を発展させ、魅力のある公園周辺にしたい。	1,113,000	1,113,000	肱川あらし展望公園付近の道路下は、雑木が生い茂り、景観が損なわれていたが、今回ある程度雑木を伐採することで、伊予灘や長浜の町並みを一望することができるようになり、観光客や地元の人からも「素晴らしい・感動した」との声を聞くことができた。また、「夕日を撮りにきたい」との声も聞くことができた。 作業小屋周りの整備は、砂利を敷くことで周りの景観に溶け込んでいて、観光客が小屋とラベンダー園の写真撮影をしているので綺麗になって良かった。	肱川あらし展望公園に上がってる車の台数が年々増えている。 今年のラベンダーの開花を楽しみにしている人達が増えている。 展望台のセールスポイントである伊予灘沖が見えるが、駐車場から見ると、長浜の町が見下ろせるようになった。	6月、7月に体験型のイベントを計画している。ラベンダーの花摘みをした後、摘み取ったラベンダーでラベンダースティックやポプリを作っていただく予定である。 黒田(クロング)のラベンダーは、西日本で生育出来る新種で、特徴は、香りが強く茎が長いラベンダーである。

令和元年度 大洲市がんばるひと応援事業【実績報告】

(単位：円)

整理番号	事業名	団体名	年数	事業概要	補助金 交付決定額	補助金 交付実績額	事業の実績	事業の効果	今後の取組方針
11	肱南地区町家再生事業	NPO法人 YATSUGI	継続 (2年目)	平成30年度は、維持管理が困難になっている所有者と接触し、管理する空き家をさらに増加させ、町並みの維持を図る。大洲の町家や歴史、住んでいる方を紹介する冊子の制作、配付などの情報発信を行うことで、古民家の活用に興味を持っている方と大洲を繋ぐ。また、町家（旧今岡製糸本宅）を整備し、町家の紹介や会議、チャレンジショップ・ワークショップ等イベントの実施を行い、古民家活用の機運を醸成するとともに、地域の方々や所有者、起業希望者等が交流できる場を創出する。平成31年度は、継続しながら事業を推進し、事業最終年度は、古民家を活用して起業や移住を検討している方や、町家をビジネス活用する組織（DMOなど）とのマッチングを行う。	697,000	455,000	維持管理が困難となっている空き家所有者への接触及び交渉を図った。その結果、新規に清掃等の管理をする物件を確保し、イベントでの活用案件が増加した。また、管理等を行っている町家を事業者や地域住民等に情報発信・紹介・マッチングを行うことにより、チャレンジショップや新規創業、イベントでの活用が促進された。これまで管理していた物件について、(株)KITAなどの民間事業者において事業化が決定され、6軒の空き家が活用されることとなった。に古民家ホテルNIPPONIAとして4棟の改修が既に行われており、令和2年4月にオープンする予定である。地域事業者による赤煉瓦倉庫でのクラフトビール工場兼バーが1棟次年度オープン予定であり、地域事業と移住者による事務所兼ショップも1棟令和2年4月にオープン予定となっている。 また、新規創業や管理、整備している町家が、肱南地区の活動の拠点として利用が促進され、事業者、移住希望者、地域の方々との交流の場を提供することができ、地域のコミュニティの創出につながっている。 情報発信については、事業化される町家などについてHPの公開や町家情報冊子を発行を行った。古民家活用促進のための自主企画のDIYや勉強会を予定していたが新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止をすることとなった。 計画の目標数値には達していないが、本事業全体を通し、空き家となっている町家が具体的に事業化されて活用される案件が増加しており、昨年度より推進することができている。	維持管理が困難となっている空き家所有者への接触及び交渉を図った。その結果、新規に清掃等の管理をする物件を確保し、イベントでの活用案件が増加した。また、管理等を行っている町家を事業者や地域住民等に情報発信・紹介・マッチングを行うことにより、チャレンジショップや新規創業、イベントでの活用が促進された。 これまで管理していた物件について、(株)KITAなどの民間事業者において事業化が決定され、6軒の空き家が活用されることとなった。古民家ホテルNIPPONIAとして4棟の改修が既に行われており、令和2年4月にオープンする予定である。地域事業者による赤煉瓦倉庫でのクラフトビール工場兼バーが1棟次年度オープン予定であり、地域事業と移住者による事務所兼ショップも1棟令和2年4月にオープン予定となっている。 また、新規創業や管理、整備している町家が肱南地区の活動の拠点として利用が促進され、事業者、移住希望者、地域の方々との交流の場を提供することができ、地域のコミュニティの創出につながっている。	空き家活用については継続して取り組んでいく予定である。 先述したとおり、具体的な物件をHPで紹介し、マッチングを進めていく。
12	愛媛鉄道開通100年記念事業	鉄道クラブ西瀬戸	継続 (2年目)	愛媛鉄道開通100周年を記念した特別展を開催するため、鉄道関係の資料を所蔵する個人協力依頼を行い、魅力的な展示を開催する。 また、鉄道模型運転会においては、大人から子供まで楽しく鉄道に親しむことができるような体験コーナーの設置に取り組む。 次年度以降は、子どもたちが鉄道の歴史や公共交通として役割を担う鉄道について、学び、親しめるような機会の創出を図る。	353,000	281,000	愛媛鉄道開通100周年を記念して特別展を実施した。特別展では、愛媛県内を走る鉄道の模型を展示し、その歴史を紹介するとともに、愛媛鉄道の沿線をたどったDVDを上映して、愛媛鉄道の遺産について紹介を行うとともに、興味のある方には遺産の説明や場所等を伝えるなど周知を図った。 また、展示会場には鉄道模型を体験できるブースを設置することで、鉄道模型運転の体験を通して家族の会話を育む機会を創出するとともに、交流人口の増加も図れた。 さらに、7月～9月には会員による鉄道模型運転会を開催し、鉄道や模型の魅力を楽しむイベントを開催した。	展示会場には鉄道模型を体験できるブースを設置したことで、市内だけでなく四国中央市、西条市、鬼北町など市外からも多くの親子、祖父母や孫といった家族連れが来場され、鉄道模型運転の体験を通して家族の会話を育む機会を提供することができるとともに、交流人口の増加にも図れた。 また、大洲に残る鉄道遺産について広く知ってもらえきっかけづくりとなった。	鉄道模型の運転会を通して、大人から子供まで楽しむことができ、親子の絆を深めることができるようにイベントを継続して開催するとともに、運転会を通して大洲地方の鉄道や大洲に残る遺跡についての情報を発信していく。
13	豊茂地域 歴史・伝統・文化の継承事業	豊茂自治会	新規	当地域は、13の行政区で構成され、人口約370人、184世帯の山間に位置する集落である。急速な高齢化により高齢化率は52%を超え、この三十数年の間に豊茂地区は大きく変貌し、小学校閉校も伴い子ども達の声もほとんど聞けなくなってきた。 豊茂地域を掘り下げると、深い歴史や文化遺産等が数多く残されており、これら地域資産の保存、活用を通じて、地域の誇りを醸成する必要がある。また、子ども達への教育の重要性を考え、この豊茂地域には偉大な先人がいること等を教える場を設け、自らの誇りと繋がるような活動を行い、素晴らしい地域の歴史や文化遺産等を明らかにし、後世に伝える必要がある。 歴史や文化遺産等を明らかにすることにより、郷土に対する地域住民の理解と愛着を深め、また、歴史や文化を見直すことにより、文化の向上や地域発展に役立て、豊茂地域に関する歴史や文化などの資料を収集、整理、保存、管理し、後世に伝えるとともに、その活用を図る。	1,803,000	1,803,000	地域住民一人ひとりが、地域への誇り、愛着、またふるさとの素晴らしさに関心と理解を深め、家庭及び地域の連携のもと、地域の活性化に向けた取り組みができた。 子どもたちにおいては、郷土の自然や風土、地域の発展に尽きた先人を学ぶことにより、郷土を誇りに思い、地域の歴史や伝統文化を継承させていくための良い機会となった。また、史跡めぐりにおいて、地域の自然・文化や歴史に触れる体験や、地域の人たちとの交流により、郷土を理解し大切にすることを育てることができた。	地域の歴史や文化遺産等を明らかにすることにより、郷土に対する地域住民の理解と愛着を深め、また、歴史や文化を見直すことにより、文化の向上や地域発展に繋がり、ふるさとの素晴らしさを再認識することができた。 また、地域、個人の資産が重要であることを認識し、次の世代に、地域の歴史文化遺産の価値を正しく伝えることにより、世代を超えて地域の良さが伝承されていく。	今後も、豊茂地域に関する歴史や文化などの資料を収集、整理、保存、管理し、後世に伝えるとともに、その活用を図る。 また、豊茂史誌を活用し、継続的に史跡めぐり等を実施する。郷土芸能については、少子化・高齢化により保存会の存続が難しい現状にあり、今後、後継者に係る課題の解決に向けて取り組んでいく。
	合計				13,956,000	13,181,000			